

# システム要件定義成果物サンプル&ガイド

## DS-307：移行要件定義

第1.10版

2018年08月29日



この作品は [クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) の下に提供されています。  
要件定義フレームワーク©2018 TIS INC. クリエイティブ・コモンズ・ライセンス(表示-継承 4.0 国際)

## 1. 概要

現行システム資産の移行に関する要求を整理し、指標を設定して実現水準を明確にする。

## 2. 使途

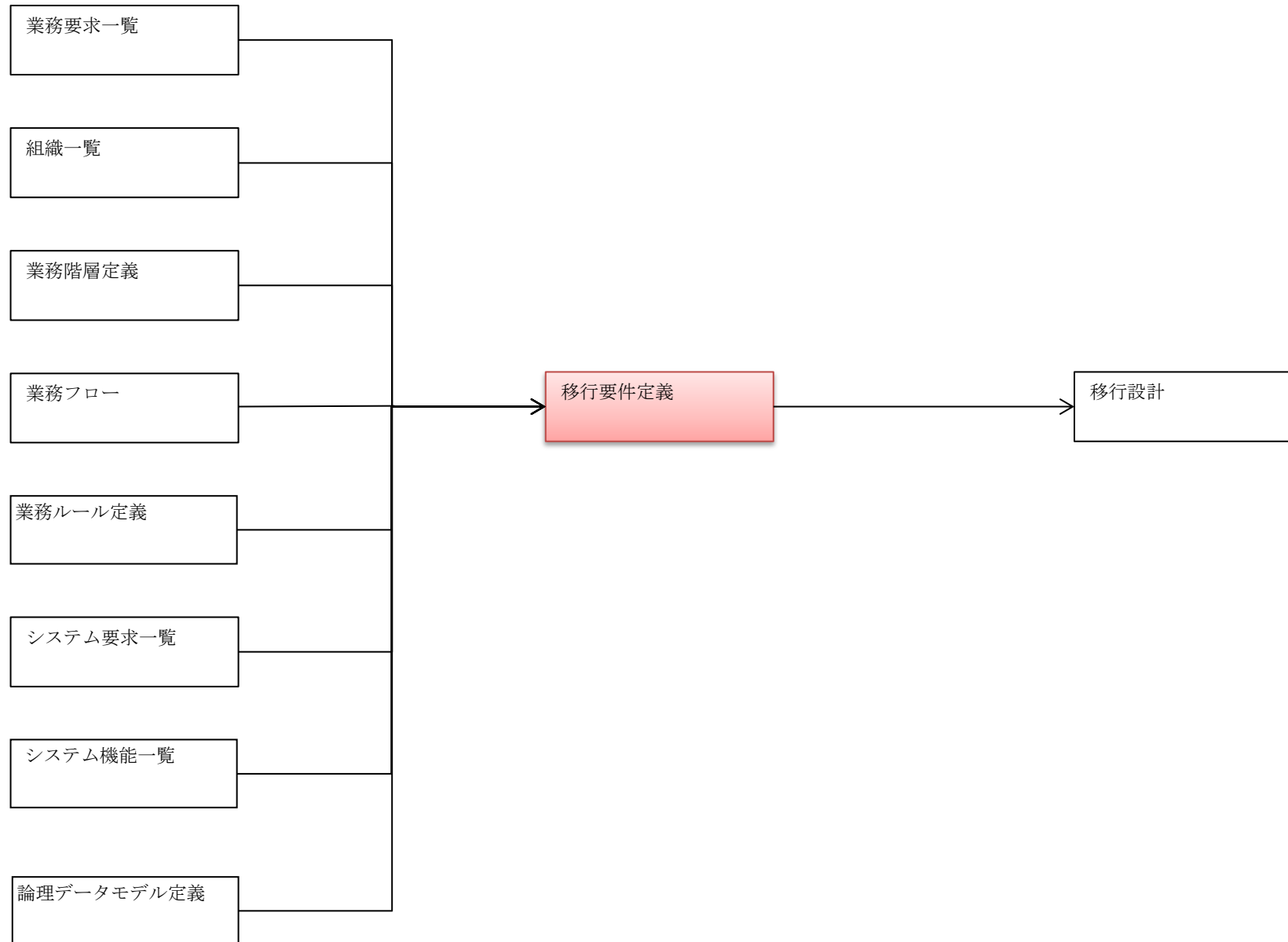
●移行に必要な要求項目を漏れなく抽出して実現する必要がある事項について指標を設定し、移行計画の策定、移行設計のインプットとする。

## 3. 記入要領

No	記述内容 (SX-XX-XXは、関連するプロセスIDを指す。)		記述内容説明	補足
1	移行時期 S3-08-01	1.1 移行のスケジュール	移行作業の際にシステム停止が可能か、並行稼働が必要かという観点を含めて移行時期を記述する。	
2	移行方式 S3-08-02	2.1 システム展開方式	システムの移行および新規展開時に、一斉に切り替えを行うのか、段階的に切り替えを行うのかを記述する。	
3	移行対象 S3-08-03	3.1 移行設備	新システムへの移行対象となる設備の入れ替えを行う範囲を記述する。	ソフトウェアも含む
		3.2 移行データ量	旧システム上で移行の必要がある業務データの量（プログラムを含む）及びデータ形式を記述する。	
4	移行計画 S3-08-04	4.1 移行作業分担	移行作業内容を明確にし、ユーザーとベンダーの役割分担を記述する。最終的な確認はユーザーが実施することを明記する。	
		4.2 リハーサル	移行のリハーサル対象のプロセス、タスクを明確にし、リハーサルの範囲、リハーサル環境、リハーサル回数などを記述する。	
		4.3 トラブル対処	移行中にトラブルが発生した時に備えた体制、対応プランの規定内容を記述する。	

[IPA/SEC『非機能要求グレード：システム基盤の非機能要求に関する項目一覧』[5]より引用、一部改訂]

#### 4. 他成果物との関係



## 5. 表記例

### 1. 移行時期

#### 1. 1 移行のスケジュール

##### 1) 切替期間

20XX年10月11日（土）から20XX年10月13日（月）

##### 2) 本番切替日

20XX年10月14日（火）

##### 3) 主要タスクとスケジュール

	20XX年 9月	10月	11月	12月	20XX年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全体移行計画作成														
データ移行仕様作成														
データ移行設計														
データ移行ツール作成・テスト														
移行手順書作成														

##### 4) 業務移行要件

移行期間中の主な業務制約は次の通り。

① 移行期間（10月11日～13日）中のオンラインサービスはATM・CAFISのみ。

（営業店、コンタクトセンター、管理センター他、端末を利用するオンラインサービスはすべて停止させる。）

② 10月13日夜間はバッチレスとし、10月14日の管理者一覧は出票しない（10月10日出票分に対応）。

また、実績帳票系は10月11日～14日を集計対象とし、10月15日出票する。

※要件定義において切替時間は概算50時間の予定で切替日程は上記の通りとするが、今後移行ツールの処理高速化を目指し

可能であれば切替を土、日で行える様、移行設計中に移行計画を詳細化する。

## 2. 移行方式

### 2. 1 移行方法

移行の案として2案を想定している。並行移動の実施有無について、メリット、デメリットを考慮し移行計画作成時に決定する。

- ・パターンA 全拠点、全業務一斉切替

メリット…新システムへの入力のみで済む。

デメリット…新システムに不具合が発見された場合、リカバリ対応のための負荷は高くなる。

- ・パターンA 全拠点、全業務一斉切替のタイムテーブル

	00時	06時	12時	18時	23時	24時
移行前日	夜間バッチ(現)	オンライン(現)				夜間バッチ(現)
移行日1	夜間バッチ(現)	データ移行				
移行日2	データ移行					オンライン動作検証
予備日	オンライン動作検証	予備				
稼働日	予備	オンライン(新)				夜間バッチ(新)

- ・パターンB 拠点ごとの多段階切替

メリット…新システムでの業務運用が段階的に行われるため、現場、情報システム部門のフォローの負荷が低い。

デメリット…現行環境を稼働させるためのコストがかかる。

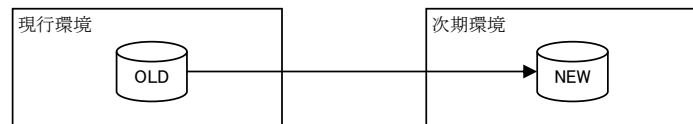
- ・パターンB 拠点ごとの多段階切替のタイムテーブル

	00時	06時	12時	18時	23時	24時
移行前日	夜間バッチ(現)	オンライン(現)				夜間バッチ(現)
移行日1	夜間バッチ(現)	データ移行				
移行日2	データ移行					オンライン動作検証(新)
予備日	オンライン動作検証(新)	オンライン動作検証(現)			予備	
稼働日	予備	オンライン(新)				夜間バッチ(新)
	予備	オンライン(現)				夜間バッチ(現)

## 2. 2 データ移行方式

データ移行は以下の5つの移行方式で実施する。

### 1) 現行DBから新DBへそのままデータを移行

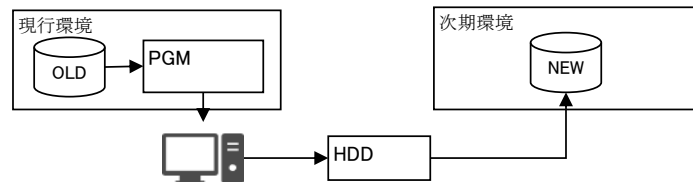


次期環境：現行DBの対象テーブルを新DBへ移行する。

対象：CTIデータ

データ形式：可変長 (Unicode) → 可変長 (Unicode)

### 2) 現行DBから新DBへデータ変更を伴う移行（移行ツールによる自動変換）



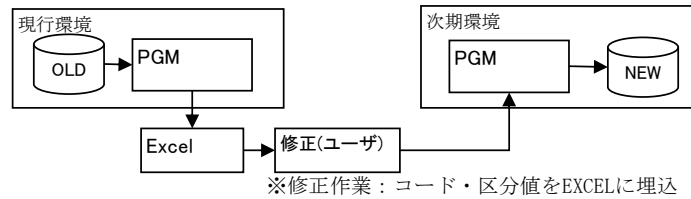
現行環境：現行DBから対象データを抽出し、文字コード変換、フォーマット変換を行う。

次期環境：現行環境からダウンロードしたデータを、HDDを介して新DBへロードする。

対象：MCIFデータ、会員顧客データ、弁済者顧客データ、申込顧客データ、支払計画データ

データ形式：固定長 (EBCDIC) → 可変長 (Unicode)

3) 現行DBから新DBへデータ変更を伴う移行（ユーザによる変換作業）



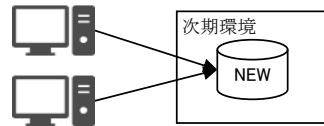
現行環境：現行DBから対象データを抽出し、文字コード変換、フォーマット変換を行う。

次期環境：修正済みのデータに対し、文字コード変換、フォーマット変換を行い、新DBへデータをロードする。

対象：店番データ

データ形式：固定長（EBCDIC）→CSV（Shift\_JIS）→可変長（Unicode）

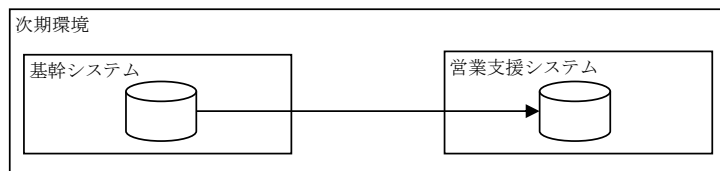
4) 初期データを登録する（管理画面からの登録）



対象：手数料マスタ、税率マスタ

データ形式：可変長（Unicode）

5) 基幹システムからインターフェース経由で取り込む



新システムの定例連携インターフェースで実施する。

対象：交渉履歴データ

データ形式：可変長（Unicode）→可変長（Unicode）

### 3. 移行対象

#### 3. 1 データ移行要件

次期システム業務要件により、ローンバック内でデータ移行が発生する。又、業務の再配置に伴い、ローンバックから各ノードへ必要なデータ移行が発生する。

##### ①ローンバック

データ移行が必要な業務要件としては、以下の通り。

対象： 約2000万件

- ・複数商品対応（プラス1口座の統合を含む）

将来の1顧客複数商品販売に向けた基盤として、データの配置変更、必要項目を追加する。

又、現状で販売しているプラス1商品を本来の会員情報配下の口座情報とする。

- ・ATM番号19桁化

将来のクレジットカード番号19桁化を見据え現状のATMカード番号、クレジットカード番号を19桁に拡張する。

- ・融資余裕額項目追加

口座レコードに対して融資余裕額の項目追加を行う。

##### ②ローンフロント

業務の再配置に伴い、ローンフロントに対してデータ移行を行う。

対象： 約50万件

##### ③MCIF

業務の再配置に伴い、MCIFに対してデータ移行を行う。

対象： 約1000万件



### 3. 2 システム環境移行要件

#### ①ネットワーク環境変更

- ・ホスト通信から、TCP/IPを利用したLAN型通信への移行
- ・営業店、ATM等各チャネルに対応していた個別接続から、  
データ交換サーバを介した浮動端末による接続形態への移行

対象： 約3000台

対象： 約150台

#### ②複数法人対応基盤構築

- ・ローンバック内資源について、システム共通/個社資源に応じたネーミングルールの適用

#### ③データ交換サーバ（新規）との接続

- ・データ交換サーバ（新規）接続に伴う、オンラインシステム環境の変更
- ・フロントサーバとのディレード機能導入

対象： 約50本

#### ④統合運用管理の導入

- ・ローンバック単体の処理形態から、運用管理サーバ主導による、システム制御および  
フロントサーバとのジョブ連携機能の導入

対象： 約200本

#### ⑤西日本コンタクトセンタ

- ・データ交換サーバ（新規）接続に伴う、コンタクトセンター（GWサーバ）環境の変更

#### ⑥東日本コンタクトセンタ

- ・次期システム環境構築

対象： 約1500機能

#### 4. 移行計画

##### 4. 1 移行作業内容

###### 1) 移行作業内容ごとの役割分担

移行作業内容	貴社		当社
	情シス	主管部門	
全体移行計画の作成	◎		○
データ移行仕様の決定		◎	○
移行元項目の明確化	◎		○
移行元データの抽出	○		◎
データ移行設計・プログラム作成	○		◎
移行計画の承認	○	◎	
移行手順書の作成	◎		○
移行リハーサルの実施	◎	○	○
移行実施	◎	○	○
移行結果の妥当性検証	○	◎	○

凡例      ・ ・ ・      ◎ 主たる実施者

○ 支援

###### 2) 主管部門への依頼事項

- ・請求支払業務において、現行システムで個別消し込みを行っていない取引先は、新システムでの各初回締めより取り込んでください。

###### 3) 主管部門への周知事項

- ・一般会計業務は、今期本決算終了まで現行システムでの運用となります。
- ・銀行保証業務は、新システム切替日のサーバ出力帳票の内容が10月9日締め状態となります。
- ・本社管理系業務は、新システム切替日時点で全て10月10日と同じ状態となります。

#### 4. 2 移行のリハーサル（移行中の障害を想定したリハーサルを含む）

移行リハーサルは一斉切替のリスクを解消することを目的として3回実施する。

##### 1) 全体目的

- ・10月11日～10月13日の切替作業が予定通り実施可能か検証する。
- ・移行計画の各作業が計画通りに終了し、移行結果が正しいことを検証する。
- ・移行計画で予定している各作業の実施時間が短縮可能か検証する。

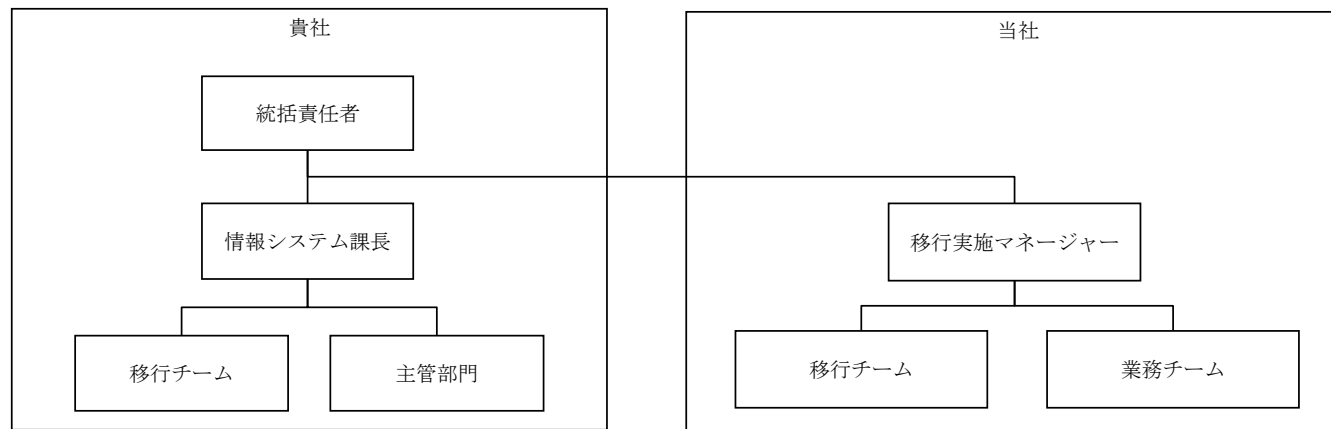
##### 2) 各実施回の目的と確認ポイント

実施回数	目的	確認ポイント
1	データ移行処理を実施し、処理時間の妥当性と移行手順書通りに実施可能かを評価する。	移行スケジュールの妥当性。移行処理のリスクの把握。障害発生時の対応手順。
2	次期環境でのオンライン接続を実施し、切替に要する時間の妥当性を検証する。	オンライン端末の動作確認。切替スケジュールの妥当性。
3	全営業店舗でリハーサルを実施し、業務運用に問題が無いかを検証する。	オンライン処理機能の確認。バッチ処理機能の確認。

#### 4. 3      トラブル対処

移行中にトラブルが発生した場合以下の体制、役割分担で対応する。

##### 1) 体制



##### 2) 役割分担

対処内容	貴社		当社
	情シス	主管部門	
移行結果の妥当性検証	○	◎	○
障害切り分け	◎		○
障害原因調査・報告	○		◎
業務への影響度調査	○	◎	
切り戻し判断	◎		○

凡例・・・ ◎ 主たる実施者  
○ 支援

※移行結果の妥当性検証・切り戻し判断は貴社に行っていただきます。当社はそのための支援を行います。